

# 広がれ「赤ちゃん登校日」

22.10.10

## 「サミット」保護者ら取り組み発表 境港で開幕

子育て支援に力を入れる境港市で9日、「赤ちゃんサミットin境港」が開幕した。同市が4年前から小学校で推進する、赤ちゃんを介して子どもと大人が人間関係力を学ぶ「赤ちゃん登校日」を全国に発信する試み。初日は

体験発表や模擬授業、シンポジウムなどが多彩に繰り広げられた。市民会館(同市上道町)を主会場に開かれ、子育て中のお母さんや県内外の教育、児童福祉関係者ら約400人が参加。赤ちゃん登校日の取り組み報告で

は、保護者、児童、教師の立場からそれぞれ発表した。10カ月の息子と登校日を体験した竹安里美さん(中野町)は「はじめは不安があったが、気分転換にもなり、子どもの成長のイメージもわいた。多くの人に体験してもらいたい」と語った。

また、上道小5年生約40人が登場し、自分たちが作った赤ちゃんへの絵本や作文、子守歌を披露。「人にやさしくできる人になりたい」「自分を大切に育ててくれる人がいることがわかった」などと赤ちゃんとのふれ合いから学んだことを発表した。

赤ちゃん登校日を提唱する高塚人志鳥取大医学部准教授による模擬授業や日本小児科学



「赤ちゃんの力」についてシンポジウムで意見を交わすパネリストたち=9日、境港市上道町の市民会館

は平井伸治鳥取県知事、山下良夫金沢市立田上小学校長らも加わり意見を交わした。山下校長は「荒れていた子どもたちが変わって、教師が変わった。学校が落ち着き、子どもの学力も向上した」と効果を紹介し、高塚准教授は「共感のコミニケーションを育てるためには意図的に学校現場に人に温かい関心を持つ場を組み込まなければならぬ時代

にきている。赤ちゃんは魔法の力を持っている」と力説していた。10日は午前10時から児童虐待研修会を行い閉会する。